



埼玉県マスコット

「コバヤシ」

働き方改革を本気で進めようとしている教育委員会・管理職のための

埼玉県業務改善スタンダード・小学校版

令和4年2月 埼玉県教育委員会

在校等時間 を減らす

学校における働き方改革をすべての教職員が実感するためには、埼玉県が推奨する「10の取組」

負担感 を減らす

**目標 時間外在校等時間を
月45時間・年360時間超ゼロへ**

※月45時間、年360時間は令和2年1月に文部科学省が示した「指針」で規定された上限時間のこと



明星大学 教育学部 教育学科・中学校教員養成実験調査研究 (文部科学省委託事業) 平成29年度等

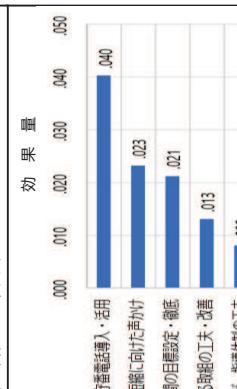
○委員等

明星大学 教育学部 教育学科・常勤講師

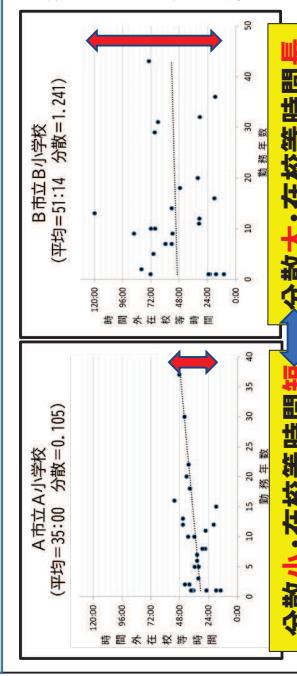
調査分析・学術指導 明星大学 神林寿幸 先生

○委員等 公立小学校・中学校教員養成実験調査研究 (文部科学省委託事業) 平成29年度等

本調査の分析から、「小学校教諭の時間外在校等時間縮減に対する効果量が最も大きい施策は、留守番電話の導入・活用である」と明らかになりました。これに次いで、「教職員同士が在校等時間短縮に向けた声掛け、退校時刻の目標設定といった取組の効果量が大きく出ました」。これらの取組を行う小学校では教諭の時間外在校等時間が短く、これらの取組は小学校の働き方改革を進めます。上に参照に倣するものといえます。



【まずは実態把握から】自校の在校等時間の分散(ばらつき)に注目してみよう



分散大・在校等時間長

「令和3年度埼玉県小・中学校働き方改革に関する実態調査」
調査報告書はこちらから

埼玉県教育委員会のホームページ内の小中学校人事課のページから本県の市町村立小・中学校における働き方改革に係る様々な情報を探せます。

埼玉県 小中学校 働き方改革



「業務改善スタンダード」のねらい 実効性のある働き方改革へ

学校における働き方改革のゴールは何か。文部科学省は、「学校における働き方改革の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることと、自らの創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うこととなること」と述べています。

埼玉県教育委員会では、令和3年6月に全62市町村から小・中学校教員会および小・中学校の教職員の皆様に実施する実態調査を実施協力いたしました。御礼申上げます。調査結果は、国の勤務実態調査の分析委員でもある明星大学の神林寿幸先生に御指導をいただきながら分析と考察を行ってきました。

本県においても、学校における働き方改革は少しずつ進んできています。この度、「埼玉県業務改善スタンダード小学校版」を作成しました。スタンダードで示した10の取組は、今回の実態調査のエビデンスに基づいています。また、「埼玉県業務改善スタンダード・中学校版」にも小学校で活用できる取組がありますので併せて御覧ください。

今後、市町村教育委員会、そして各学校の管理職の皆様に御活用いただき、働き方改革推進の一助となれば幸いです。

埼玉県教育委員会

令和4年2月

埼玉県教育委員会

本実態調査の時間外在校等時間に対する効果量は、留守番電話の導入・活用が最も大きいことが明らかになりました。これに次いで、教職員同士が在校等時間短縮に向けた声掛け、退校時刻の目標設定といった取組の効果量が大きく出ました。これらの取組を行う小学校では教諭の時間外在校等時間が短く、これらの取組は小学校の働き方改革を進めます。上に参照に倣するものといえます。

○委員等

明星大学 教育学部 教育学科・常勤講師

調査分析・学術指導 明星大学 神林寿幸 先生

○委員等 公立小学校・中学校教員養成実験調査研究 (文部科学省委託事業) 平成29年度等

本調査の分析から、「小学校教諭の時間外在校等時間縮減に対する効果量が最も大きい施策は、留守番電話の導入・活用である」と明らかになりました。これに次いで、「教職員同士が在校等時間短縮に向けた声掛け、退校時刻の目標設定といった取組の効果量が大きく出ました」。これらの取組を行う小学校では教諭の時間外在校等時間が短く、これらの取組は小学校の働き方改革を進めます。上に参照に倣するものといえます。

○年間授業時数を必要最小限に

○会議時間・回数を必要最小限に

○教科担任制（学年担当制）の導入

○登下校の見守りを保護者・地域に

○学校行事をゼロベースで見直し

埼玉県マスコット

「コバヤシ」

埼玉県マスコット

「コバヤシ」

埼玉県マスコット

「コバヤシ」

埼玉県が実施した「令和3年度働き方改革に関する実態調査」(県内全市町村より小・中学校1校ずつ抽出し、124校で実施)における小学校抽出校の調査結果から得られたエビデンスに基づく「埼玉県業務改善スタンダード・小学校版」を提案します

○年間授業時数を必要最小限に

報告書 78 ページ

業務改善会議の実施と時間外在校等時間

年間予定授業時数	時間外在校等時間
45:00	12:00
46:56	12:00
47:00	12:00
49:19	12:00
51:00	12:00
53:00	12:00
55:00	12:00
57:00	12:00
59:00	12:00
61:00	12:00

学習指導要領が示す標準時数は、6 学年合計で 5,785 時間です。この授業時数で教育課程を編成している学校は 4 校 (6.5%) あります。逆に最大は 6,858 時間で、その差は 1,000 時間以上です。

少ない時間で豊かに学ぶことを意識し、行事対応や学級閉鎖対応の余剩時間を必要最小限とし、忙しい学期末のコマ数を減らすなどの工夫をしてみませんか。

○会議時間・回数を必要最小限に

報告書 79 ページ

職員会議等の効率化と時間外在校等時間

会議時間・回数	時間外在校等時間
45:00	45:00
46:51	50:45
47:16	50:04
49:00	55:00
49:30	57:00
51:00	59:00
53:00	59:00
55:00	59:00
57:00	59:00
59:00	59:00
61:00	59:00

ICT の活用によるペーパーレス化等、会議の効率化を行っている学校は、在校等時間が短くなることが多いきました。学校規模と在校等時間の関係をみると、学年 2,3 年生規模の学校が最も在校等時間が長い結果が出たことから、「放課後の一周年での打ち合わせ等時間を見直す」、「見方もあります。

○教科担任制（学年担当制）を導入

報告書 80 ページ

教科担任制の導入と時間外在校等時間

教科担任制の導入	時間外在校等時間
45:00	45:00
48:45	50:10
49:43	50:45
49:45	51:00
49:55	53:00
49:56	55:00
49:57	57:00
50:45	59:00
51:00	59:00
53:00	59:00
55:00	59:00
57:00	59:00
59:00	59:00
61:00	59:00

小・中学校 9 年間の連続性和教科指導の充実、更には教職員の負担軽減の効果が期待されています。右の図は、県内でも広く取り組んでいます。異なる教科担任制によく、金曜日等で導入している学校今は、負担軽減でも効果をあげているようです。その後は生徒指導や保護者対応にも効果が期待されます。異なる学年担当制（複数の教員で複数の学級を担任する制度）の導入も検討してみてください。

○登下校の見守りを保護者・地域に

報告書 84 ページ

登下校の見守りと時間外在校等時間

登下校の見守り	時間外在校等時間
45:00	45:00
47:31	49:06
49:45	50:45
49:50	51:00
50:45	53:00
51:00	55:00
52:15	57:00
53:00	59:00
55:00	59:00
57:00	59:00
59:00	59:00
61:00	59:00

実態調査から登下校の見守りを地域に委ねている学校は、在校等時間が短くなることが分かりました。また、教職員一人あたりの登下校指導等に係る時間は、1 日あたり 16 分であることになりました。ある小学校では、「通学・下校等の登下校の見守りを PTA 役員・保護者にお願いしました」という報告もあります。

○学校行事をゼロベースで見直し

報告書 84 ページ

効果があつた取組を 3 つ選んでください

学校行事をゼロベースで見直し	時間外在校等時間
0	45:00
5	47:31
10	49:45
15	50:45
20	51:00
25	53:00

右の図は、調査対象の小学校が選んだ「効果があつた取組」のうち、上位 10 項目までをまとめました。2 番目の校務支援システムの導入効果は多くの学校で認められているところですが、それ以上に挙げられたのが行事の精選と工夫です。コロナ禍を契機とし、ゼロベースの環境として行事を捉え直すチャンスです。

○業務改善会議を継続実施

報告書 86 ページ

業務改善会議の実施と時間外在校等時間

業務改善会議を継続実施	時間外在校等時間
0	45:00
1	47:31
2	49:45
3	50:45
4	51:00
5	53:00
6	55:00
7	57:00
8	59:00
9	59:00
10	59:00
11	59:00
12	59:00

ボトムアップ型の校内業務改善会議を短いスパンで継続して実施することで、働き方改革が加速するところが分かった。ポイントは少な成功体験を積み上げて会議を開き、小さな成功体験があることを実感するような仕掛けをつくることが大切です。

○留守番電話の導入

報告書 83 ページ

留守番電話の導入と時間外在校等時間

留守番電話の導入	時間外在校等時間
0	45:00
10	47:31
20	49:45
30	50:45
40	51:00
50	53:00
50.7	55:00
64.1	57:00
70	59:00
70	61:00

時間外対応のために留守番電話を導入している小学校は 27 校 (43%、国とほぼ同水準) でした。右の図は留守番電話の導入の有無と時間外在校等時間の平均を比較したもののです。1 月で一人あたりや、約 3 時間の縮減分につながながら、導入していくことを検討してみてください。

○「困っているかな」と思う同僚に声掛けを

報告書 85 ページ

長時間勤務者に対する同僚の声かけと時間外在校等時間の割合

「困っているかな」と思ふ同僚に声掛けを	時間外在校等時間の割合
0	45:00
10	47:31
20	49:45
30	50:45
40	51:00
47.16	53:00
50.04	55:00
50.7	57:00
50.7	59:00
64.1	59:00
70	61:00

右の図は、長時間勤務者に対する同僚の声掛けが時間外在校等時間の縮減につながっているというエビデンスです。また、「仕事等について同僚や管轄職員に相談しやすい」という回答は、86.6% の教職員が相談しやすいといつて高い回答でした。この数字は他の業種に比べて高いそうです。負担はもちろんですが、「負担感」を減らすことでも非常に重要です。

○完全退校時刻を設定

報告書 82 ページ

完全退校時間の設定と時間外在校等時間

完全退校時刻を設定	時間外在校等時間
0	45:00
10	47:31
20	49:45
30	50:45
40	51:00
48:39	53:00
46:49	55:00
46:49	57:00
46:49	59:00
52:15	59:00
52:15	61:00

完全退校時刻を設定している学校は、在校等時間が短くなることが分かりました。限られた時間で業務の優先順位を決め、タイムマネジメントの意識が高まります。決められた時間に退校することで休養を確保され、取組を行なうとさあ仕事へ行こうといふことは「朝、目が覚めると、さあ仕事へ行こう」という数値が高いことを見直しました。

○作品等への評価方法の再考を

報告書 88 ページ

担任の負担軽減の取組と時間外在校等時間

作品等への評価方法の再考を	時間外在校等時間
0	45:00
1	47:31
2	49:45
3	50:45
4	51:00
5	53:00
6	55:00
7	57:00
8	59:00
9	59:00
10	59:00

習字や絵画、工作などへのコメントを簡略化し、通知票等でしつかり評価するという学校が増えています。右の図からもわかるように担任の負担軽減を進めることで学校全体の業務改善につながります。加えて学級掲示の簡素化など、これまで当たり前とされてきたことを見直してみませんか。